

平成 30 年度（第 48 回）栗東歴史民俗博物館協議会の概要

- 開催日時 平成 31 年 3 月 1 日（金曜日）14 時 00 分から 16 時 10 分まで
- 開催場所 栗東歴史民俗博物館 会議室
- 出席者
協議会委員 西尾 悦子（会長）、中野 光一（副会長）、大西 洋子、大橋 信弥、
川波 重和、國賀 由美子、澁江 善光、月野 みつ、山本 喜三雄
の各委員（9 名）
- 事務局 三浦 英幸（スポーツ・文化振興課 課長 兼 歴史民俗博物館 館長）
大西 稔子（歴史民俗博物館 主幹 ・ 学芸員）
中川 敦之（歴史民俗博物館 主査 ・ 学芸員）
の 3 名
- 欠席者
協議会委員
吉見 静子 委員
- 傍聴者 0 名

概要

- あいさつ
- 委嘱状の交付について
- 協議事項
 - ①会長・副会長の選出について
 - ②平成 30 年度博物館事業について
 - ③平成 31 年度博物館事業について
 - ④その他
- 閉会

議事

- あいさつ
開会のあいさつ（三浦 英幸 スポーツ・文化振興課 課長
兼 歴史民俗博物館 館長）
- 委嘱状の交付
協議会資料とあわせて配布

3. 協議事項

①会長・副会長の選出について

委員の互選により西尾 悦子 会長、中野 光一 副会長を選任。
就任のあいさつ（西尾 悦子 会長）

②平成 30 年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 主幹より説明。

栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会が、

・滋賀県博物館協議会表彰（平成 30 年 6 月 24 日）

・栗東市市政功労者表彰【社会功労】（平成 30 年 10 月 8 日）

を受賞したことの紹介。

- (副 会 長) 2 月の入館者数が突出しているが、理由はあるのか。
- (事 務 局) 栗東市および滋賀県の児童・生徒の作品展（「栗東市青少年美術展覧会」および「滋賀県教育美術展」）を開催している関係で、来館者数が増加している。
- (副 会 長) 現在開催している、特集展示「栗東創世記～聖火が栗東を走ったころ～」の影響はあるのか。
- (事 務 局) 多少は影響していると考えている。
- (会 長) この会議が始まる前に、特集展示「栗東創世記～聖火が栗東を走ったころ～」を見学した。1964 年の東京オリンピックの聖火リレーでの走者（伴走者）が家族で来館されており、展示されている写真を見て盛り上がっている様子だった。
- (事 務 局) 博物館の展覧会で扱うものとしては、新しい時代のテーマだが、実際に走った方が見学に来てくださっているという手応えはある。2 月 24 日（日曜日）に開催した展示解説会では、当時、栗東に設けられた 4 区間のうち、3 区間での走者の方がご来場下さり、旧交を温めるなど盛り上がっていた。
- (副 会 長) かつての懸案事項として、漏水（雨漏り）があったと思うが、現在は解消しているのか。
- (事 務 局) 現在、漏水（雨漏り）は発生していない。平成 30 年度（2018 年度）には、年間 14 件の修繕工事を実施した。空調機を中心に修繕の繰り返しだが、文化財の収蔵環境として致命的な損傷はない。
- (委 員) 収蔵庫のスペースはどのような状況か。収蔵庫が過密になり、保護すべき文化財が収蔵できないようになっては、博物館としての機能を十分に果たせないのではないかと懸念している。

- (委員) 空調機の抜本的な改修は実施したのか。
- (事務局) 抜本的な改修は実施していない。
- (委員) 平成2年(1990年)の開館以来、同じ空調機を使い続けているのは驚異的なことで、早期に改修を計画する必要がある。
- (館長) 現在、栗東市では「公共施設等総合管理計画」を年次的に策定しており、平成31年度(2019年度)が歴史民俗博物館の「個別施設計画」を策定する年次にあっている。歴史民俗博物館の施設・設備を中長期的に維持していくための管理計画であり、策定にあたっては委員の皆様からもご意見をお寄せいただくなど、ご協力をお願いしたい。
- (委員) 無住の寺も多くなり、全国的に文化財の盗難も多発している。そのような被害を予防する上で、博物館の役割は非常に大きい。収蔵庫がいっぱいになってしまう前に対処することが必要だ。
- (委員) テレビ番組で紹介していたことだが、無住の寺での仏像の盗難に対処するため、高校生が中心になってレプリカをつくり、実物は博物館に収蔵しているという事例があることを知った。本来あるべき仏像をレプリカに代えることの善し悪しは別として、文化財を守れるという意味では、お寺にとっても喜ばしいことと言える。文化財を収めることのできる博物館は必要であり、大切なものを保存する場所として機能していった欲しい。
- (委員) 施設の長寿命化計画を策定する際には、行政が運営している公立館では特に、予算ありきの話になってしまう。行政の都合や、現場の希望ばかりを盛り込むのではなく、専門家の意見を聞き、本当に必要なものを盛り込んだ意味のある計画を策定すべきと考える。
- 「栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会・栗東歴史民俗博物館協働活動 10周年記念事業」に関連して、展覧会はともかく、講演会などの関連事業への参加者数が少ないように感じる。広報が不足していたのではないかと思う。また、この事業について冊子などにまとめ、配布することも必要ではないか。
- 現在、栗東歴史民俗博物館では年間4~5回の展覧会を開催している。開館当初は年間8~9回の展覧会を開催しており、この協議会でも、多すぎるのではないかという意見を出していた。現在の人員体制では、今の年間4~5回という展覧会の本数は多いのか。
- (事務局) 厳しい面は確かにある。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館は、展覧会で多くの実績を残してきた館であるが、それを継承していくためには人員が必要だと思う。
- (会長) 以前に比べ、職員数は減っている。現在、館長は他課の課長の兼務という

ことで、行政的な面での支援はしていただいているにしても、やはり専門性を持った学芸員を補充しないと、博物館を守っていけないと考える。この協議会として、要望できることがあれば、そのようにしていきたい。

(委員) 栗東歴史民俗博物館は、かつては重要文化財の公開承認施設だった。再び、公開承認施設として活動していただきたいと考えており、そのためにも人員の補充を求めている。欲しい。

(委員) 良い活動をされていると思うが、もっと PR できたのではないかと感じる。そのためには予算的な措置も必要なのかも知れないが、「栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会・栗東歴史民俗博物館協働活動 10 周年記念事業」の中でも、“なにわホネホネ団”をお招きした講演会などは、もっと多くの子どもたちを集められたのではないかと。

(委員) この協議会で出た意見を聞いておくだけではなく、実際の動きにつなげて欲しい。人員の補充や予算の確保に関する要望や、施設の長寿命化計画の策定に向けた専門家による委員会の立ち上げなど、できることはあるはずだ。

(委員) 有料入館者数が 0 名ということだが、全て無料、市費のみで運営されているのか。

(館長) 市の単費で運営している。

(委員) 有料化を検討しても良いのではないかと。収入を確保したほうが、予算措置も講じられやすいように感じる。入館料を完全無料化している博物館は全国的に見ても珍しいが、現在の予算状況はどのようになっているのか。

(館長) 展覧会などの事業にかけられる予算の状況は変わっていない。「栗東市元気創造事業」として、別枠の予算があり、平成 30 年度（2018 年度）に実施した「栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会・栗東歴史民俗博物館協働活動 10 周年記念事業」や、平成 31 年度（2019 年度）に予定している「トーク & 8mm 映像上映 聖火が栗東を走ったところ開催事業」は、その枠組みの中で予算措置が講じられている。

人員面、また、予算的に厳しいということはあるが、工夫して取り組んでいきたい。

③平成 31 年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 主幹より説明。

(委員) 【野洲川放水路通水 40 周年記念】特集展示「野洲川と栗東の暮らし」（仮称）は、野洲市・守山市との共催ということだが、どのような内容か。

(事務局) 野洲市歴史民俗博物館、守山市はたるの森資料館、そして今後協議を行

う予定の守山市立埋蔵文化財センターと連携し、5月の下旬から7月の上旬にかけての時期に、それぞれの館で同時に野洲川をテーマとした展示を行う。

- (委員) 展示内容の調整は行うのか。
- (事務局) 基本的には、それぞれの館が収蔵している資料や、特徴を活かした展示ということになるが、3月上旬のうちに担当者による打ち合わせを行うので、協議したい。
- (委員) 「トーク&8mm映像上映 聖火が栗東を走ったところ開催事業」では、特集展示「栗東創世記～聖火が栗東を走ったところ～」での調査成果を活かす、とのことだが、どのような調査をしたのか。
- (事務局) 1964年の東京オリンピックの際の聖火リレーについては、公文書の保存年限を超過していることもあり、行政の側には史料がほとんど残っていない。そのような中で、当時の新聞記事をもとに走者を探し、ルートや練習の様子を探るという作業を行った。また、走者が残っていた資料や記録、記憶から、当時の様子を復元した。
このような聞き書きが主な調査内容となるが、その成果を展覧会以外の方法で還元したい。また、走者に当時のことをお話しいただく機会を提供したいという思いもある。
- (委員) 8mm映像は当時のものか。
- (事務局) そのとおりで、当時としては珍しいカラー映像のものを見つけることができたので、デジタル化し、特集展示「栗東創世記～聖火が栗東を走ったところ～」の会場でも放映している。この映像についても、より多くの方にご覧いただきたい。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館では、以前は図録を刊行していた。展覧会での成果を見えるかたちで残すには、やはり図録が必要である。今後は、図録の刊行を再開できるよう、予算措置を講じて欲しい。
- (委員) 特集展示「えがかれたいのりー絵馬・額一」（仮称）では、実物の絵馬が展示されるのか。
- (事務局) いくつかの市内外の社寺から絵馬をお預かりしており、それらを中心に展示する。また、栗東市内に残る絵馬について、いくつか借用できればという思いもあるが、所有者のご事情でお借りできない場合や、安全面から運搬が難しいものについては、写真で紹介したいと考えている。
- (委員) 栗東音楽振興会（RISS）では、古くから博物館でコンサートを開催したいという思いを持っていた。平成23年（2011年）に、閉鎖された中央公民館に置かれていたピアノが博物館に移設されてから、活動の幅が広がって感謝している。博物館の展示と音楽にはなかなか結びつきにくい面もある

が、狛坂磨崖仏（レプリカ）の前でのコンサートに来て感動される方も多く、展示をご覧いただける機会にもつながっているように思う。

今回初めてこの協議会に出席し、博物館のさまざまな活動について知ることができた。一方で、この協議会の会場になっている会議室は、RISS ミュージアムロビーコンサートの演奏者の控え室として使用しているが、壁紙の汚れなどが目立っており、少しもったいない気がしている。建物の雰囲気、もう少し明るくなっていけばより良いのではないかと感じる。

2年前から、秋季の RISS ミュージアムロビーコンサートとして開催している「お月見コンサート」を、栗東自然観察の森・栗東市立図書館との共催事業「3施設秋めぐり」の一環として位置付けているが、3施設をめぐるイベントになっていないように感じている。例えば、栗東音楽振興会（RISS）が関わる中で、全ての施設で演奏会を開催するなど、一体感を持たせるための方法はあるのではないかと感じる。

（会 長） 本物の楽器に触れる、さまざまな空間での演奏など、栗東音楽振興会（RISS）に関わっていただく中で実現すれば良いのではないかと感じる。狛坂磨崖仏（レプリカ）の前でのコンサートは、すばらしい環境であると感じている。

（事 務 局） 「3施設秋めぐり」はもともと、それぞれの施設が単独で行ってきた事業を、より効果的に広報するという観点から始まった。2年続けて開催する中で、ご指摘のような周遊性のなさ、一体感のなさは、担当者同士の協議の中でも話題になったことがある。栗東音楽振興会（RISS）からのご提案については、他施設の担当者にも伝えたい。

（委 員） 博物館は敷居が高い、と感じている方は多いので、コンサートなどを通じて PR してはどうか。滋賀県立安土城考古博物館でも、定期的にコンサートを開催しているが、普段とは異なる客層が来場される。

（事 務 局） 平成 29 年度（2017 年度）のこの協議会でご意見をいただいた小学校による利用の促進につなげるための試みとして、平成 30 年（2018 年）の夏休みにあわせて、野洲市歴史民俗博物館、草津宿街道交流館（草津宿本陣）と協力して 3 市共通のチラシを作成し、それぞれの施設から市内の小学生に配布した。一定の効果が見られたことから、平成 31 年（2019）の春休みにあわせた配布も予定している。また、春休みのチラシでは、それぞれの施設の近くあるサクラのスポットを掲載することとし、栗東では栗東自然観察の森を紹介する。

（館 長） 平成 29 年度（2017 年度）のこの協議会では、「平和のいしずえ」展の開催時期についてもご提案をいただき、平成 29 年（2017 年）には秋季に開催していた「平和のいしずえ」展を、平成 30 年（2018 年）には夏休みに

開催したところ、来館者が増加した。少しのきっかけで大きな効果が得られるので、工夫をこらしていきたい。

- (委員) 博物館に来ると何かを知ることができる、という嬉しさのある場所であって欲しい。狛坂磨崖仏（レプリカ）の前でのコンサートも良いが、お話し会などを開催しても良い。心に響く場所を、多くの方に訪れて欲しい。
- (館長) 春休みのチラシに掲載するサクラスポットのように、気軽に立ち寄れる場所づくりをしたい。
- (副会長) チラシの配布は良いことと思うが、ターゲットを明確にする必要がある。小学生に配布するチラシということだが、見ていると親の世代がターゲットになっているのではないか。もっと、子どもをひきつけるものにする工夫をして欲しい。

④その他

・スポーツ・文化振興課から推薦依頼のあった「栗東文化芸術会議委員」について、西尾悦子 会長を推薦することを承認。

・平成31年（2019年）4月1日からの2年間を任期として、生涯学習課からの推薦依頼が見込まれる栗東市社会教育委員について、西尾悦子 会長を推薦することを承認。

4. 閉会

閉会のあいさつ（中野光一 副会長）